

マスコミ・消費者視点からの  
食品表示制度のこれからと課題について

日時 2019年12月2日(月) 13:15~16:45

会場 フクラシア八重洲 3F 会議室A

〒104-0028  
東京都中央区八重洲2-4-1 ユニゾ八重洲ビル3F  
<https://www.fukuracia.jp/yaesu/access/>

開会挨拶 13:15~13:20

▼参加費：会員無料、会員外1,000円 ▼先着120名  
フード・フォーラム・つくば 幹事長 間 和彦氏  
農研機構 食品研究部門長 鍋谷 浩志氏

基調講演 13:20~14:20 (休憩14:20~14:45)

『食品表示制度の現状について』

黒坂 仁氏 (消費者庁 食品表示企画課 課長補佐)

パネルディスカッション 14:45~16:40

『食品表示制度のこれからと課題』

－ 添加物表示、栄養成分表示、ゲノム編集食品の表示について －

○オーガナイザー

・小島 正美氏 (食生活ジャーナリストの会 代表)

『メディア報道に見る表示のバイアスと誤解』

メディアは何かにつけ、消費者の選択や知る権利が最重要だと報じるが、そもそも消費者の選択とは何なのか。表示が消費者の健康維持など、どのように役に立っているかの議論はあまりない。単に『知りたいから表示してほしい』は選択でもなんでもない。



○パネリスト

・阿南 久氏 (一般社団法人 消費者市民社会をつくる会・ASCON 代表理事)

『消費者に役立つ食品表示とは何かを考える』

消費者庁創設の一大テーマであった「新たな食品表示制度」の確立は、当時、『食品表示法』制定後に回された個別課題の検討と合わせると、その期間は10年を要しました。果たして当初の目的は達せられたか～到達点と今後の課題を探ります。



・森田 満樹氏 (一般社団法人 Food Communication Compass 代表)

『食品表示制度の現状と今後の課題』

2015年4月に食品表示法が施行され、アレルギー、栄養成分、製造所固有記号、原料原産地、遺伝子組換え表示などの改正が行われ、添加物表示の検討も進んでいる。一方、消費者の多くにそのことが伝わっておらず、活用されていない。



・浦郷 由季氏 (一般社団法人 全国消費者団体連絡会 事務局長)

『消費者から見た食品表示制度』

消費者団体として食品表示制度についてどう考えるか。現在、検討に関わっている食品添加物表示をはじめ、ゲノム編集技術応用食品や原料原産地表示等について、弊会の取り組みを紹介し、今後を考えます。



・合瀬 宏毅氏 (NHK解説委員室 解説副委員長)

『理解できないのは消費者のせい？』

原料原産地表示に、遺伝子組み換え、添加物。さらにはゲノム編集技術。次から次へと変わる表示のあり方と新たな技術による食品の出現。頻繁に変わる表示と、官邸などトップダウンで進む政策の決定は、かえって消費者の混乱を招かないのか。政治主導という名前のもと、見えなくなった政策決定プロセスを考える。



・岡 礼子氏 (毎日新聞 暮らし医療部 記者)

『記者から見た表示の問題点について』

コンビニで商品棚を眺めると、情報過多のパッケージが目につく。特に健康志向の商品がそうだ。情報は少ないと選択できないが、多くても伝わらない。どのような表示が分かりやすいのか。取材から考えたことを紹介する。



閉会挨拶 16:40~16:45

表示・起源分析技術研究懇談会 委員長 安井 明美氏

交流会 17:00~18:30

会議室E 会費：5,000円

お問合せ・参加申込み先

◆フード・フォーラム・つくば 事務局

萩原・塚田 (office@fft.gr.jp) TEL: 029-838-8010 FAX: 029-838-8005 URL: <http://www.fft.gr.jp>

◆(公社)日本分析化学会 表示・起源分析技術研究懇談会

URL: <http://www.jsac.or.jp/~kigen/>